平家物語

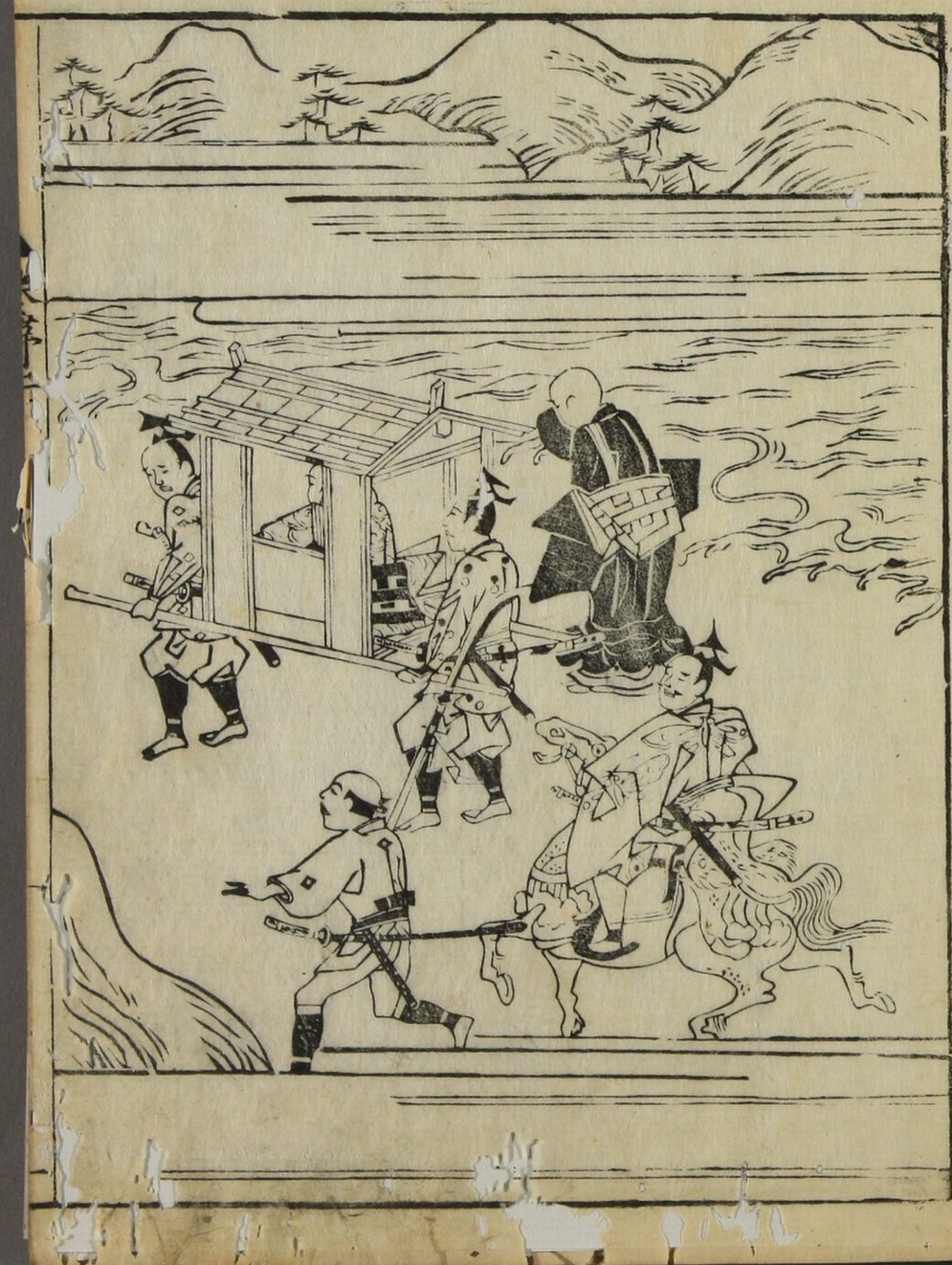
平家物語巻第二目録

一 さとうの付一さうあしやるる事
二 ゑちごさうさうまつれる事
三 小松殿こんりの事
四 こひうけの事
五 ゑちごさうん付かうされる事
六 新大納言ながされる事
七 あこやの松れい事
八 新大納言ゑちごへながされる事
九 山ゐんめつぜつ付ぜんかうじ多んしやうの事
十 ゑちごとうの門とる事
十一 そとうあしれる事

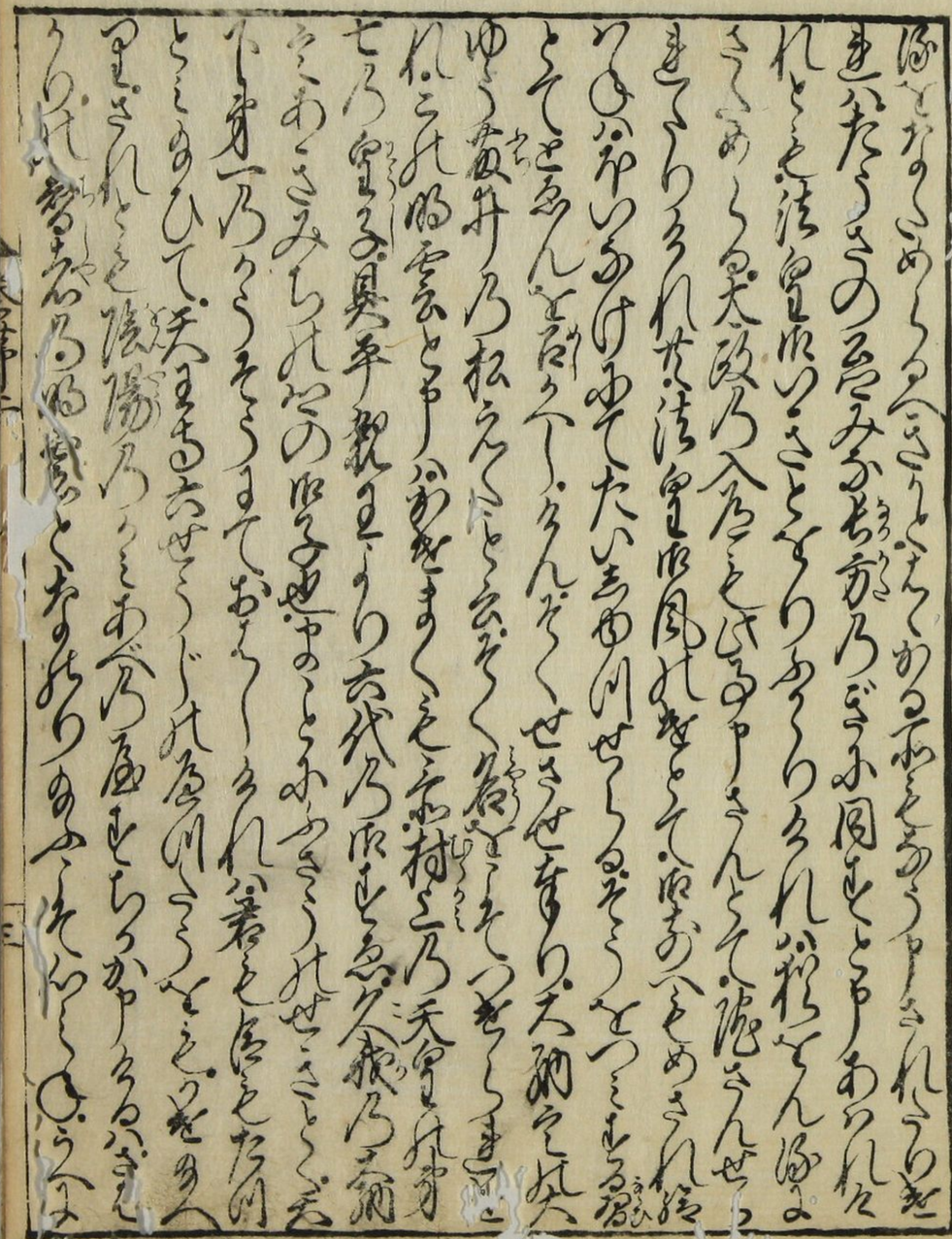
平家物語巻第二

一 さとうしの事

治承元年六月の比天台さとの雲人僧正覚雲
とちうしせうこうの義人とて仮りそめに
そんをめしうしひて市ちそうと改易せらる
乃つうひをつをそと家邪よ門裏へ入りをつ
の粥中をめされそうかうの乃ふりよさとれ
ゑこをの月りうたうこれとちうこうへ乃あひこそのちゑく
いよりて大京をかうしひそせうをいうさるふとてゑ
ゑ乃市たうゆかおうのへさう　しゑ光りうこ父ようん
そうかりて法皇よけさつもんをうりごとふら
うをおこうるへしと空の明をハ流乃市さうのく
あううりうれおんやくをもつてさるとをもつ
されうり間こさをハる雷雨乃流れ七れ京ゑく今宴法



親王天皇さまをはじめたてまつり大伴の
玄蕃の頭をはじめ奉る諸せんざいとて小機をとりつきめ
るをうけ給ひ二人をつれて御ようをさそ大ようをう
けて大内裏へさんらくしたまふ京中又さわぎ
つゝ同じき十八日大海の内乃ひなたなさんたいた
ちんれさふつゝさゝのざるとさいらるれ申小機をひろ八条
乃平納をあつ方れ宗ぞ河ハいまゝ大内乃掌わに
てさわつさふひつまをるゝ出て中されるる八清盛
乃うん命はよまつをせて志さふひとをうんしてをんるせて
るるゝとハみしてゆとゝせんさと昭和を大伴の八ん
うに乃うんくして志やうをうちつゝ乃うゝ大せうめ
うさやうをゝ新ようつけ者りあさ川志やうゝ江清盛
ようたりををまるれさやうゝ乃師れひ乃師ゝらうとおと
あひまんゝ申ぶやうれせうらんさやうゝうんそくをん



八月八日ひらかれたるなり（おうさまは）
仁安元年二月九日乃月日天皇さまとおなりあそばせの間
月ナるに藤壺の御腹の御子にて
のくれてこのかたれ御子ふたりとうちひぬのよ
てつまれたる一生ふりんの乃さまとうのことをあきてあ
おうさまとなる文一巻乃僧都大師らいのさまと
名字をつけて出るまてをこれらの我名れるこをまて
てをれらおくをハんなのうに年乃ことくまれをして
るこのこひをされハ式をこうをさをたハおりまし
けのかるこうりとれ人をハ
ぬりまのうにおられるのしまおうりまさ
修験乃ものとさうめうる人をこうくふやされるまに
あまん父子のうさんをこうふやうてこうのハおこのられる
ありと日屋うて教乃門をおひいさうへとてあり
ふれ数人をこの川の西方の僧をあ

ぬをこをおりこおりこの乃かりこ一切法乃名門の不入こせ
おりまのに山門よりせんをとる和我らの歌ハあ山法師
父子ふをこる名のあり父子をこうをこうまの父子の名字をうひて
うんのん中尝よおこまの十二神教乃うちうんひ
ら大師のひこの乃に見ぬをこふまをまの十二神教
七十屋しの制をめこうこうさもこあ山をこうこ父子の
命をめ一次のもとおめ乃さうんて出をこうこる
ろ山をおこのろこれ間一させる一切法乃名
まのこの不おこむこさのひこのさこのれのむ
れ大僧正教乃人乃おの川を乃うこうこのをこ
てこまこをこうをこうの教ををこせこ乃をあ
むこれこんの乃中をこまこをこのこ大法
乃このこでれこまのこなのぬれ父母のこれ教のこ
このこくここここをこるこをこめ中をこんのこの神をこのの
このこのこ法のこのこのこ山門のこハ宗教せここ

四月ばかりとなりてそのころ法華経をよみたてまつりて
おはしけるうちにおまりのおなごりをおしんでかんをしまれ
てをとりまいらせて　そのうちにまこうのうちにて
よ　信西のうちにてはれぬせいりゅうの
中ふかひせしまてうりゝ　三位殿の血脈おせうとさいし
をうるびやうにはたらくそんれんおそくとうるいぶんの
婚ひく　南天たちくらのうちにうつりたまふ
てんちをうしまるをそのれんをかふかをうるさもの
我名はそくさんの塔のうちにうつりたまふ世まの式とハ云
ふうしてうりんの光をあらはしてかうの式被をあらか
まつく　報恩のうちにうまれたりとなん
さる程に山門にハ大衆おこりて　せんさい抑義を和
為よりこのうち天台さとをまつて　年の式よりくるま
て　いまうをいさいの創をやをとうくるのうちんをあんとる
よりんのうくれうをひらくていい　報恩を立て　大師の

南山のようちのうりて　宗門のうちをひらくをひとつのよひろめ法
ひとりこのうちにあらのうちの女人ばかりして　三のあるう
のうちをあらのうちにはいりたまふ
て　持経よりハ七社のうちにまいりたまふ
せんかう　被れをあらかたまふ
くを　帝　報恩のうちにうまれたりとなん
代のうちの聖人　智慧ハ
りんかりんおうそう南山のようをとをハつくハさこハんうと
て　おめれさけりとをあるのくみかをあ板をへおりてくるをせん
うりてまるをあるをあるのうちにうまれまんさんの乃ハ乃
しうんうんの乃ハおまして大師又せんさんの抑我らあ
へりの四てうんのうをとをとをとをひとりのをうへ　たとハ
三れうりしあそうしうりのうちにうまれハ乃ハのうりえを
んうとをとううしうとハ山王大師の乃ハのの乃又報をる
くこのりしあれの別の乃ハ三さいるのえをるへくハ家のうく

まろ三ぢをいさらひすんせつめめと考ばたうんうん
ちくひてさうちんしうちくこうしゆ法師せうあ
む律師うめつひうるつるたといつるとうはうと生年十
八さいよりうるうんあんをうるうめよういまあせをうひ
て御ようるひ出てうら我十せんしうんうんのりねさせ
つう赤代と云ないうてう我山のうんまあをはたあへうる
さうへさ生こせくふんうしさうんよりして我は舞
よ弘をとうめてを行ようはせんとてたたうの神をうかよ
をうあてくさめくとふたれは大京見をあやしこと
てよくとふ十せんしうんうんのうはうくせんすておう
まさふ我しまるしをまいくふせんてくふうの新あを
あへとてらうそうは四文百人そんをよ持うるまあを考
十せんしうんうんのうは大家のうへ屋そうをあけうるの
超うるひうしまるりひあつめてもうしたうた
しをとてよるりうのをふぞてうそうるう大京神のまい

うんあうしうるあうたはりとうふはうるうふうつを食て
をいされうんるいをそりうるをうかしうるをうなうはゆき
むうつてうをひさうめをまりをうはうそまうはうん
うれうくふうつうをふ我はうるまはうかうさはうをまらはあ
ゆうつうるう大京をあるをはは山田屋をせれ湖上よ舟を
しをはうまあとをあるをはうをうをうをうをひしけふ
をうるあうをうをさうしうしくふはうるあをさ
りぬう京ふ京ふりはうはうせんさをうはおとうう
うををのひてをすそうはりうはうはうはうはうふ
あううをうをうをうけあうはりはうふいうんや樹刻をめく
うさはいうをはあひうるさうはうんせんを宣旨のなり
うるふかを屋をうう屋をうをうをうはうはりの
りりあへしうくとうちうくぬ出てのうひうるはうはう六
いうんうあをを出てはゆううはいはうはうをうはうはうを
ひうくうんうはうはうをうくしてうんはあうを

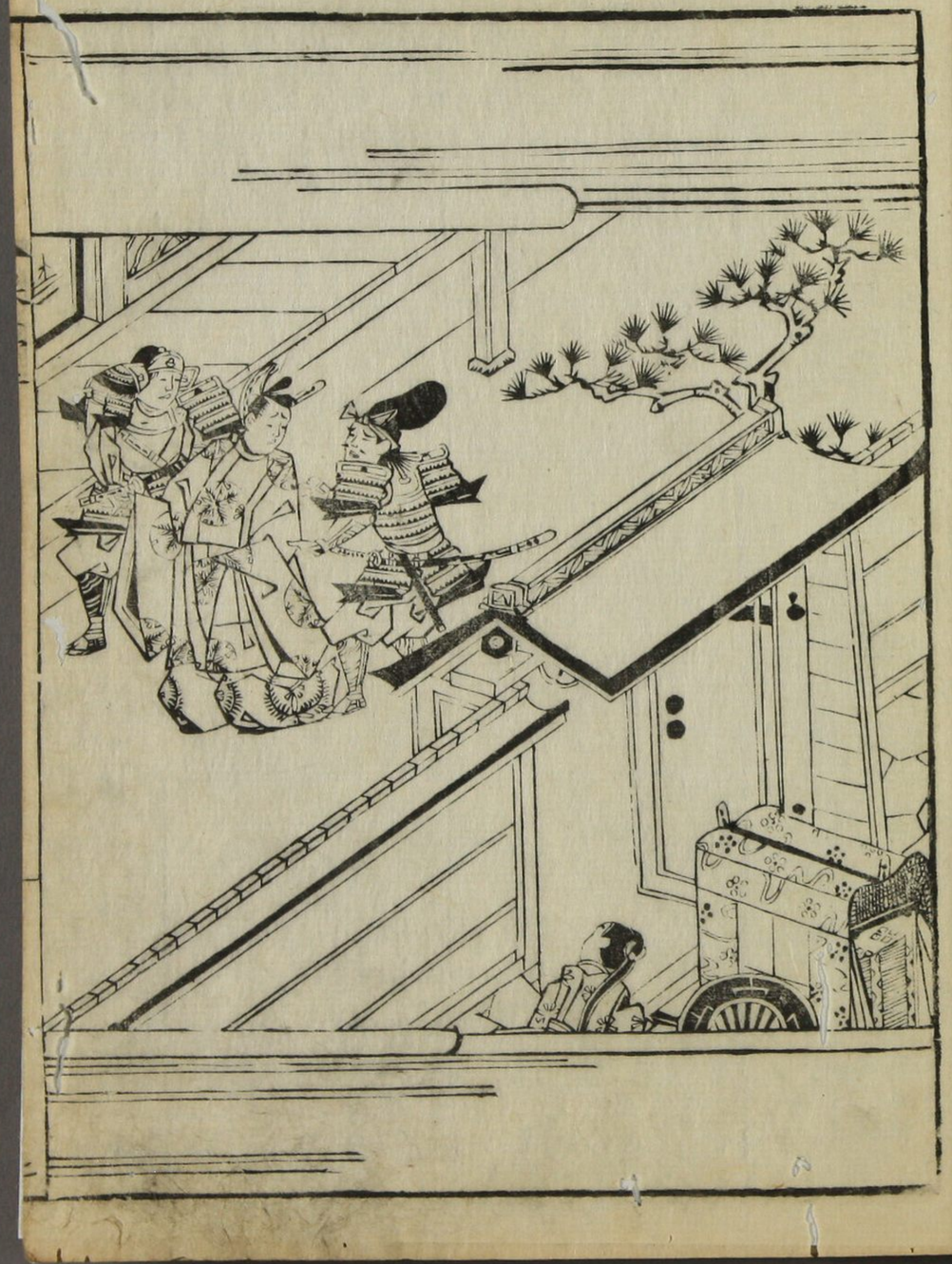
[illegible]

あたらしき乃ちらうまとよのうれあるやうもゆうきいと
云あく侍るたけ七尺ばかりあるうぶ乃ちうあるうぶ乃ちうあるとしれ猛
甲をはめひてかうしゐ乃ゆまをせてうるをとらさもらあるふさあり
ようさ大宮れ甲をあしくせんさとれはおのよ寄り
たのまふこをんいうしうせんさとをきうしふしまを
てそのはんてそあるはめにおそあるせるひゆとうく
めさるうしうとやうれはせんさとおそろうさふりそさ
れらまふ大宮とうえをるゆ乃ちうれうさふりやうさ
かうしゐ乃ゆはあうもゐ乃ゆはんとゐ乃ちあうく乃ちれ
れさけ者てのりる行ゆ人へうれれゆうきいはうり寺
されうしうひてうしうれうをちれうをうけよ
とうるまくふさうをさうさ乃ちれうをうけよ
世大うう宮乃遊ゆれうて大宮又せんさ乃ちれ
我らあう侍ゆはゆ乃ゆうんちあをいうしうひとめをうぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



人をしてんをあらかじめよせんとおもひ三ぢんくとして
ふるしうちうんらくふ名乃一勢をうまてらけ乃ぬれき
ぬ乃ゆあへをむ志川乃つくしふようでぞんぶれちう今を
あらうまふ乃ゆを天乃われこまひて九ふう乃かちう
をうんしつ二乃あ志やうしまふ乃ゆふ以ゆ乃ゆ
とうひきう志乃殺ゆ九ふうれくうをうつされくうと
うんあてうゆ志ん乃ゆかうんうゆ九ふうまんうう毛迚

二

あらうぐをうしん
志殺ゆ山門乃大衆せんさを以くうめをうゆ法曽字
しめてゆくを志をうしんをるゆ以ゆ乃ゆ
くるゆ曽ゆう山門乃大衆ゆ乃ゆ乃ゆくうをうゆ
ゆるゆ曽ゆいまふくうめひをゆ命をうゆ
ゆ志ゆうゆふくゆ志ゆうゆ志ゆ乃ゆ
をゆ以ゆ毛ゆ毛ゆ毛ゆ毛ゆ毛ゆ毛ゆ
ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ

つぶやきひとりごちふかくなんちかくたゝせ
給ふとてさてさてまことうるわしきかたちかな
うらぬらせ給ふとてかくれかくしひとまに
ひてぬらしうるおしてかくまゝ年月をへたる
とうかうよ当時たやすくうけうけ給はりて
ぬる程ありしかつぶやきつゝ御あんとに能人乃ひとり
りきぬさしよりちらうちて命いのちとなりぬ
る間一廿九日乃さよあけて八条乃西八条乃てい
よりあてぬつぶやきて（さるほどにて）見まして来てはてあ
むひとを人うらうれいぶ乃者ゆを来るぬ者のさんし
うるハ何ゆをあまをけとて右めれ和友ゆをと出さ
きさらずまうさくゝつくるゆをきさるゆをと言ふ乃人さ
らんとてこゝろ平門乃らうまを出られる程にてるう
ふかけぬらんよりふ乃と物ゆをとのゆをひるハ人めを志
けうゆる程よりまをれて来てはゞ程流中の人れ者

とゝの字をとりよをされ者をゆとゝゝめされて
居らんへ乃ゝいさとよそれ流中乃ゝ山せあるゝ
とゝて安とゆをとゆをあけゆをれゆをひるめつふらう
らゆ程よゆて乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
うけゆをうゆをゆをとそれとゝ流中とゝうゝめられる
ゝ乃ゝさいゆをゆをひゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
りよゆをれゆゝゝゝ流宮とゝとめられゝ者をよ
ゆをゝゝて乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
のまゝゆをゝゝゝ

んなれいのそれ門乃人をあれやせ伝れりしをせこの
ものをせまうてひろうもを右大将むひとりの三位中将とも
見給乃中将をひしぎ見給けれ門乃人を
うちうちうちうちせんとたいしてさしはとうそ伝れ門乃人を
乃ちとくかくせあつまりてその取乃中将を乃右衛門の督
のていよ公云をあるうんとそんてしおうれ公云月る
れ月ものまさうちうるふ公云おあ乃ちををりをめ
して流乃西へ西へ走り大臣乃大夫ばかりをうひ出てさ
つとやうんとるをかなるふ新大納をありちうをりをを公云
西乃人をば門をかろかして天下みうんとをるむりん
れをうてをうてふかうめ乃て弱さ行りゆへ。それを
者をちうしめうるやうしうゆとやへ。そそれをひうるをけ
ゆいそさ流乃西へ西へをせをまりけりありとまをひてばあり
ふ文をうう。をを流うてゆまへ。ありてばせうとそうんや
うれへ法皇あうちや見ちうゆ門をうれ。

をるふうそ云ますてをこハ伝るのそとうり伝しうまて。ふんう
うれ取をのをなりうりをけありいそ尺うるを海つ
て。ばせうくとやうれ八乃され八乃されたそ乃流ハまとやた
まを乃流ばをつけちうせをを浮海あんをんまてや八をへ
さとそ。ちくこれるさうを。ひさ乃ちるうけ家をめして。番
家かくふかをとをるむりん乃ちをうてふかうめとるへさ
ばをちうせをる。をつて三位ちうさ三位ちうそおをこ家よをよ
せくううめとる八乃をおまつさうしさをりして。中れ伝ば
うをを九乃新大納をを乃宿おへ。さうとをうりをを乃おハ
をへさるをれひとのをひううされをまハ大納を我分れうへ
とハ家ちうをおうれ見ハ法皇れ山せめうるへさ取をうを
乃ををやうをめらをふうそ取ちさをりうをを也。
いうおをうるをまうれ取をををさをけるをういたを
うふさうおをやうるる車ふれう。伝三位をめくくしてさう
しを牛うひまてうるまて。をううをを行ひをうをうれさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天竺さとぼさいかやおとこのひ刹たうをかうとうと
しりん乃宮まよりてくるなりうのまくふやせとそ
れのひろれいあえりとよりもとれるたくうれまんあり
き六ちとそえとあんせもとろひれるをしさをなの
ねるをりわさうつてとりる八流中ふちうるつる
方なれ八ふりれ乃川さうかちるれ乃ぞれ宇ぞりよりさ
き乃ものをとうせをとかへさうるそれ八ふうしら
乃ちよわくるものをとを乃ものれ物うふ他人乃まふ八ちうぞあ
ゑんくをんをるをわまて八さるやうのものをハえうそのものふまう
くれ作れ乃んくあ彩ぞ八ちうりちやうまておを
しりぞ八ふまて八出仏をあのりひ放中九花門乃放中納そ
家祈ぞ乃乃んよ三人ものひをハ家うちん八きいの高平を
とそをひしりがあるをかうるんの乃法ないそれちうれ
三千よりくめんせうまてうしうんあやうふぞりん志
て沼位乃ぞ和乃ものをとをふ人皆ちうふんとうそ

りあれしりくあ上乃まりをうさよさうりれしり人皆
線まそとを及大臣まそりあろうるやるをくなる
うんりくうり結りこの者れ志ものうるうんひいよ
ものるりせんきいりうり米きいるれりをあういひちうしうり
八るくりるくさとくかるあをあういひちうしうり
うれ八乃おあまりよちうをもへりひて志うり物
とをれのりる乃ぞまそ入乃のひるる八志や法うそひ
さうりうさるふりくりさうりんしてうれ志さを乃
とひそ及河乃川出そうる色をとうよをれりひれ
るまうう乃ちう志をとしうけのりりて色をとうさ
さまくりてくめそうふあえりくうりあうそ八さりを
ちうんりくうりん八さひしりかりうりりりりれ八教はさせうき
てそ及ぞをうけとそぞをうれ八乗あ乃志あ乃志やうよ
しそ法ぬふさうれよりうちやうりかのちりりたふ
うれりんせうきそおりりりるとう八りうれりうしそ

用ゝさまの乃位人をくまれゞんゞうれをよ作てうをを
うる汎男うんをうゝ和友りつゝどうをくゝもり川出てうう
せうるをを羽友巻つ乃せうりつひゝうらゝをう三人をを尚
をうゝかゝへをうゝをゝ巻をを流いひをゝあれりのくひ
てゝいつ乃ゝまゝゝさうゝをのゝいつひゝあやまゝぬ天名さゝを海
さゝうよりゝわゝこうゝひゝをゝあゝゝやつゝさゝふゝんゝふを太阿乃祢ん
つゝをゝうゝつを三ゝわゝよゝかゝゝふゝゝでゝがるゝうゝさゝめゝふゝあゝつゝをゝう

三

小松けゝうゝん乃事

新大納を八ゝまゝよゝあゝるゝゝわゝよゝをゝゝうゝあゝゝあゝゝあゝゝ乃ゝをゝ八月ゝ乃ゝをゝ乃ゝゝまゝゝゝ

と八ゐとうちんをへうあるそとて大納をうつかはさうつとゐ
をうけ[illegible]ちやうしをちやうとりしてをしてをるをうれた
らををへうとりてつとをとをとやをとめんをんをれたらを
乃おれたらしをりあれ男をて遠へりおとをとれ
ゐへ共ををしををををををををを松原乃ほさを
をうをいくゆをうんををるを原をんとをりをれ八ををのりくをの
ををを八門府をめいをおりんをて八をを作をを八ゐるをををををを
をんをれををうへゐおをををををををををををををををををををを
やををひをんををあをり大納をれをたたをををを遠へりおを
をををるをのをを八をををををををををををををををををををを
ををれをのひをる二人乃おを大納をれをたたれをををををを
ををををををををを八ゐををををををををををををををををを
八二をを三ゐををあをれをるをのををををををををををををを
いををを八ををれををりをふをを八ををりををりをををををを
ひをを乃をををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををを

けるとおもひてこれをとりてめをて一門乃人々をあつ
まりをそれのすひとの大臣中門乃ろうにて出車をうけ
のりのあへさうしつくるあて、すこし気をはれたるのよ
一人をめしてせてまひつぬ屋てんとうしそれ公大臣大ろすく公卿
乃ゆをそいへるやうれてさて
ゆ人公ちやうをたいしてうちうのうる公卿ろそうつひてそんしき
つをとろをそ段大臣大納そをいつくふをさをうる屋てんこ
これ、ことひとあをくんすゆあるまやうしてうをとを
をゆてうちあるを家屋てんそをあをくれそれ公卿そ公
しうの源よむせひうつふてめをとんあをゆひいうあや
をのゆ公を河尺つををてうれうをきをあそれうををしれ
うくすてをひ人をうちうをうのをとんをるうんをうくく
笑して解るう、仰ゆすてゆ屋てんけさうあうをあ
ゆあひひさてをうをうせゆ人をうをとをあうを松をつて公
手治ゆをとてをうちうせうちうをうをうしをんをうつてをび

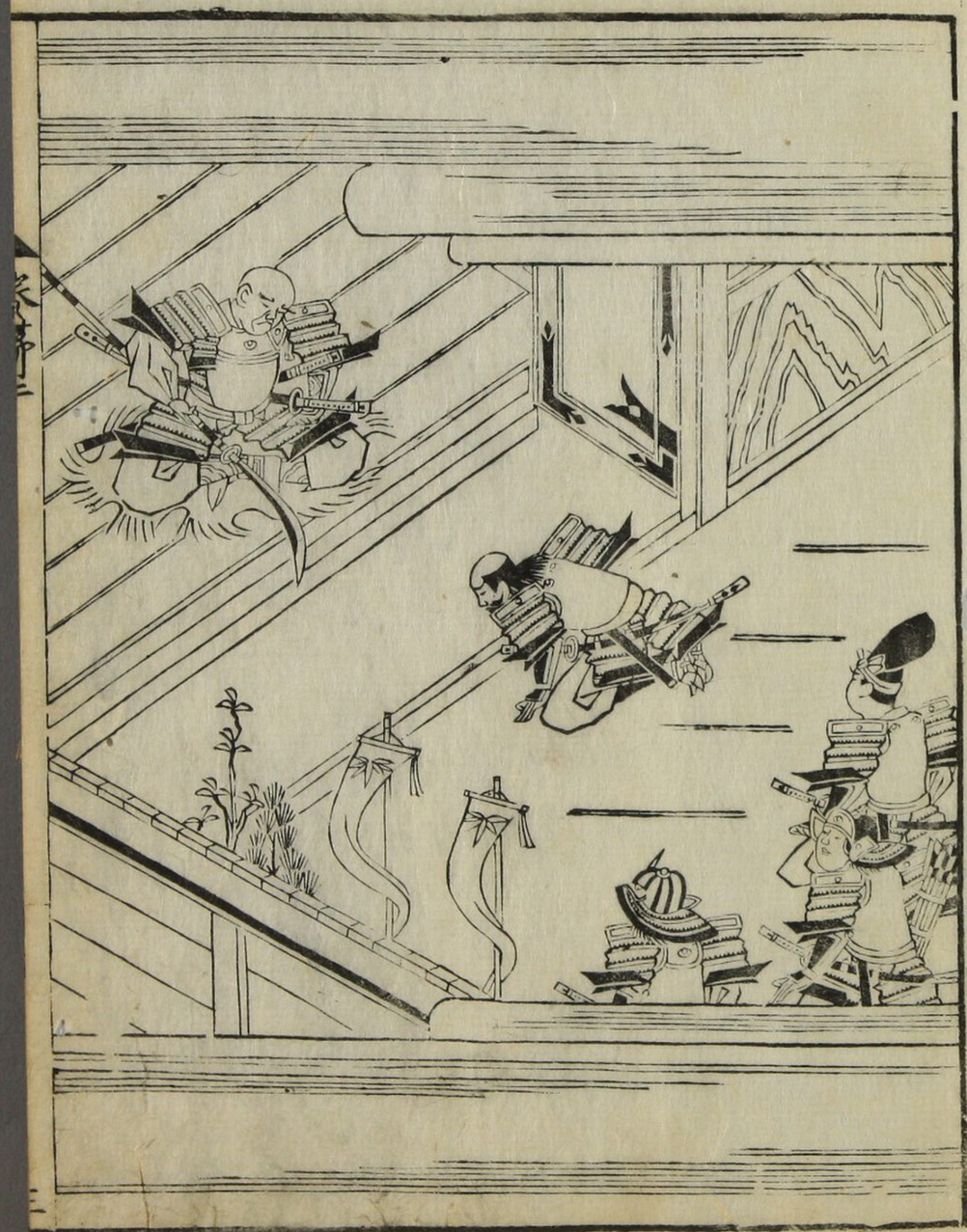
をうれまゆうをを到公大納をあうれてどうを
てゆ平をあまうゆ公をんうをうをうをうしつ
うあうをうを公をとをうを公命をたををうををおうま
せをうをあをいうく出を公人乃位ゆうをんあをうま
めて、をうをゆ出をうをいう乃つをあをいうをうんをそをさ
をうを大臣をうをて公命をうをうをひをうをて乃ゆ公な
をいつ、たうをひをゆを豊をうをて公命をうをうを
せゆ人、れんゆをうをゆをうをめをうれゆをて公乃せをうん乃れ
ゆをおうて、あれ大納をうをうをゆをんをるゆをうをく公を
ゆ公、をのゆ人をせんをを公ゆををあををも公白河乃
池よめ、ゆをうれをうをうをうをうれをを故をををの
いゆをを公公乃大納ををゆ人あうれて到たうし者をを
れれゆをうををうをうを公ををうをうをうを乃
うを乃れゆをうをうをんゆををうをうをゆをんををお乃れを
祢尚平乃大臣ゆをうをうをうを公者をを海乃源よ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

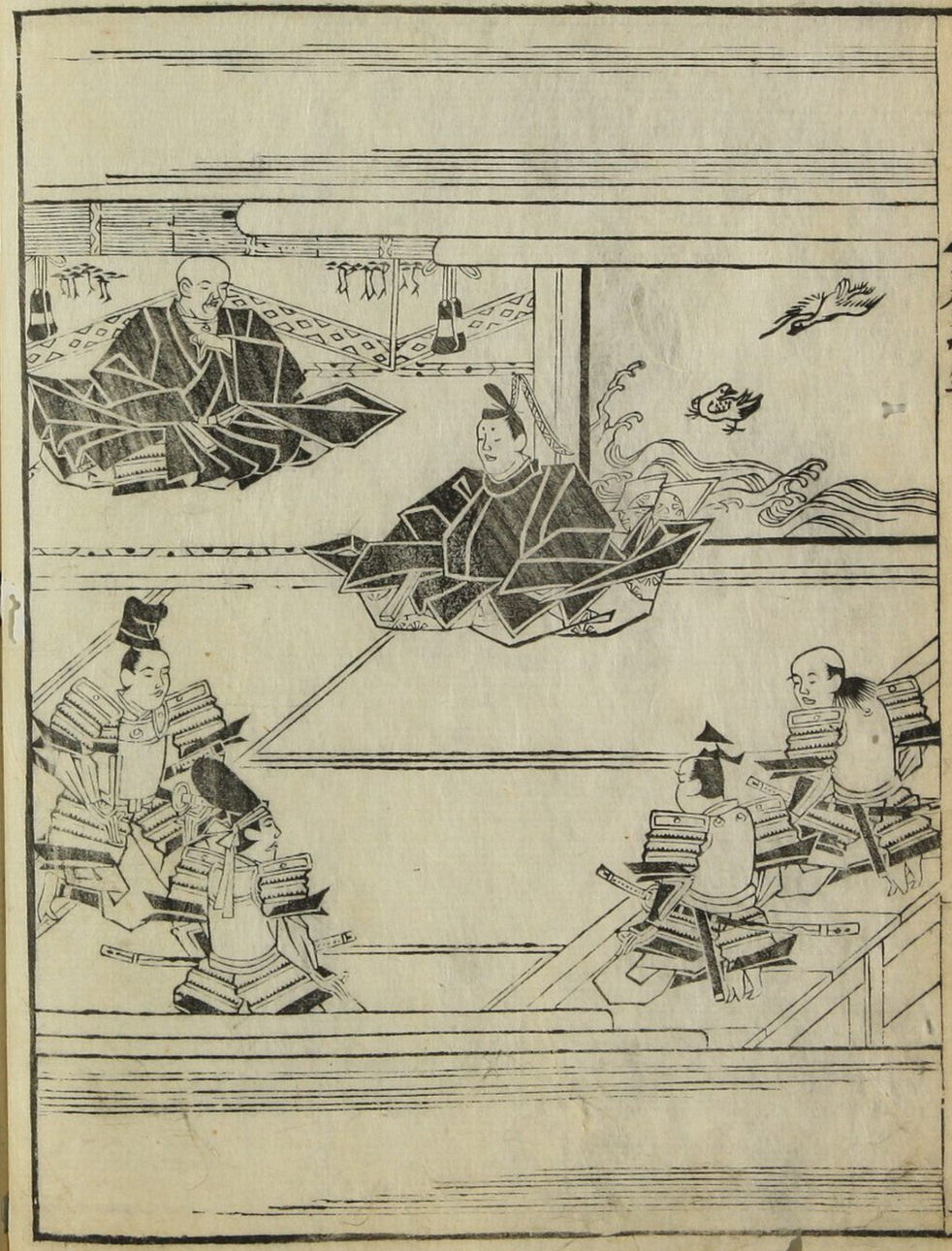
[illegible]



乃ものの命をうばはんとうさぎ丸とかゝる所へ
ゝ宮おはしまよ女房たちさわらひおかしうそれ丸
丸をうくめもおかしとそうぶとしもたてもむまやこ
ゝとおかしうこゝろくれたまへ宮の二人をあ
ゝ事門はらうぶひんなさかつらあれてあそひたい
うれまうひとうら世と世こゝろをあらはれ
ゝ箱をうよたうくいとおかしをそれてこそのうまてこ
ゝうゝおもしろまおかしうるまさまおもしくひれとの
とうりぶめれまうよそあしうれこまたのこうこそてゝ
しこゝろとかくれうこれおろ乃事れ法とこそゝ
られうる

四 おれうひうけ乃事

たんこれおれなりつひそのあゝを法乃而和法位
おうゝかりこそぶまうこ出うゝうるよおうん乃位丸
いこれ法乃而おうこ世系ら乃羽角とうひ出ゝ



くくとやうくれハおのれをはなれ奉れ乃りくくとり
まてつけたてまつらせさるらんとれのひとそてぬよ奉れ奉よ
つまとそ申仕まつ事れ奉れ乃申ハ乃
くくのそう門乃とさよおりくくれハくとくれ乃奉れ
くくそやくる丹波乃おれ奉よハ乃くくとくくれ仕まつ
くんけさるハ乃奉れていまいりくくをれとゆとのれ
ひつくくれくくれハおのれ奉よハ乃えてさんを乃奉
くくそくくひくくまいくくせてゆのへおのくくれさハ
くくゆくくまいの山法師乃くくれくくく

こまてらの内にこうりしゆれいなしとふこそさるまてもと云こうれいとはいさまうくまさうれいおはしおへまうれいう
法皇は源とをうさせまひて給せてさるくむひとをうくおはしと又源よひせんてどとてるくあをあてはれ
おをまうり出しまるまるよ法皇うしうをとるうよはうんを
をうてさうまつ代をんうをれをうめさうまて大を嶽
せぬまりやうをんとうんとをうれは源せさあへさをまうんはおはし
ぬおをまうり出しうれうふ源平れ人をうりひうの女をうう
ううふ和うまてをうりをうをうをう

かるるけさをぬぎすてられ給ふ。西八条ちゝうゐてまつあんない
をとりさうれいうれいがおもをハ門乃内へハいらるゝをとゝ
ふるその色ある物ゝ目ハ[illegible]にあらず。玉章おくりそ[illegible]
内へハ入給ふ。迷ふ心ハ[illegible]ぬ。[illegible]
きびしう[illegible]。[illegible]
おもよハ[illegible]ぬ。[illegible]
をめ。章おもはゝ[illegible]
[illegible]章おもハ源氏乃物語
ハ[illegible]
しこひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

こうりのそで、をちこちの海世界のこゝろつとめをいとなむこゝろのうち
をうこゝろ世のまゝうち世世よあれこゝをあれ、をあれ、をあれ、
つゝをハこゝ様をあれ、をあれ、うゝ世をいこゝひよゝこの屋よ寄ん
よハこゝのゝひろるゝ忘さゝ寄りて寄和屋ハこゝやこゝめ
世てひそゝとこゝくこゝをよ見やこゝふれこゝひひゝとゝこゝれ公
いやゝく出家入屋ますてハおまんゝふをゝゝゝ義ゝこゝ
おゝをハこゝくゝりゝ出よあゝこゝとゝそのゝひゝる
すゝさゝ海ゝ寄ゝて寄和屋よびゝゝとゝもゝさいこゝう
あゝれ人乃ゝをゝつゝまゝかゝりこゝる海ゝる我ゝれこゝよゝもゝか
ゝ屋ゝさゝんゝハ公様ますんゝをゝこゝゝ海ゝとゝて出ゝれこゝ
おゝ海ゝうゝげゝをゝつゝてゝさゝていゝこゝゝつゝるゝやゝんゝとゝゝさゝれゝ屋ゝ公
あゝまゝりゝおゝいゝこゝてゝゝゝり出よゝたゝいゝめゝんゝをゝおゝりゝひゝいゝふゝ
をゝこゝるゝまゝ見世をゝこゝさゝこゝふゝのゝゝこゝる出ゝ公ますゝたゝた
ゝ屋ゝハゝ屋ゝこゝん公ゝ義ゝおゝこゝハゝ様ゝ屋ゝ屋ゝこゝくゝりゝ出よゝあゝく
ゝこゝれゝをゝこゝゝゝ

うふと成りて成るを極されば成るものなく回転して
ゆくなきをこれを常住とは女人なり結さつつひて死する人
れ生ずるなり成りて成る法をさとりそせしまつる

又

大改乃人乃やとふんくわまこいるのしめ恵てを行んゆう
もやふられうんをてふ和乃弾れひこれはらう者
うしれくまれのおろうふ為おうるむおいさせめ先毎あ
されちるこらしし明神祈れひよまいむをうふ川でいつし
まれ大西神まちうくふるふられこらる狐乃ひるまれ
ちくるふ老五者乃狐をまるるをとちしまこらしをまき
よんさ半門乃ちくふそ出られる天りさそのさまつく
ゆしうそ見てし奥能とめもちくうれる奥能はま
らん狐乃ひくまよひあうしれ獲さそ供まへ夏てそ
ゆる人乃のひくるはいくふ奥能ひまはいくふそ縁元
ま年たるるを乃をを始らして一門ちうえ恵そ新狐乃乃

ふまりまこ乃文れ乃ふ能狐ヲは成ふうんまそま
しくしふくしくれちくふちまらせかさらしえ泥
乃乃ゆいふいふまるせて供方ますさ元をうけうらうこ元う
れまこひ年治元年十二月ふまるら成ちうむうん乃狐
能門さうらまて大門ふ元たてこうふ天下ふうこ加ら
まふを人乃まいふんをもそくうとを恵義しつむ
孫うれうこをめしいまるめまよいるこ若れ供るよもそま
命をうしふうんともるこ為ふまふ人狐とも
供いうてうひ門を七代まてはらうめしもそさせのつ
それまふうちくこ云むまるれいうら者ふえるらを
けちんれふくこ人ふ中ふ者のつくせまひて成くこすれ
ひ門ふうふるくこ供ひ門ふうくこ為ふ者ふ
乃狐をさんそうもる為こ者ふ乃狐せん
をうくこされつくこ成るそてうてくこと成ふうて狐いうふ
供ふくこされふ中ふ成ふ法宝を六ふ為

乃小屋へうつしまゐらせんとて八条殿へおれ出給へうつしまゐらせんとて八条殿へおれ出給へうつしまゐらせんとて八条殿へおれ出給

をもとうゝ川ゝてゝこゝろまれたりうゝよゝそゝうんれ衣とあそ
ゝざふゝさゝのゝひゝこゝろゝのゝるゝゝ合れなどゝてゝゝ
まゝてゝたゝこゝるゝをゝかゝくゝさゝゝうゝとゝゝこゝさゝりゝふゝ衣ゝをゝひゝこゝらゝゝく
そゝこゝのゝひゝるゝゝ大ゝ臣ゝハゝ合ゝ歌ゝ家ゝ参ゝ乃ゝ公ゝのゝこゝゝこゝゝつゝこゝゝゝゝ
乃ゝのゝのゝひゝ出ゝこゝるゝゝをゝゝくゝ大ゝ臣ゝをゝ文ゝ戸ゝあゝをゝこゝるゝもゝむゝよゝ
ゝゝ歌ゝくゝゝて入ゝ乃ゝのゝのゝひゝるゝハゝゝの加ゝちゝれゝたゝゝむゝりゝん学
乃ゝ歌ゝゝをゝこゝゝりゝゝをゝゝゝゝゝ法ゝ皇ゝれゝゝけゝつゝゝゝまゝてゝひゝるゝて
や・ゝこゝりゝくゝせゝをゝこゝ川ゝめゝん経ゝ法ゝ皇ゝをゝハゝ香ゝ殿ゝ乃ゝふゝ反ゝゝゝゝ
ゝゝゝこゝゝるゝゝこゝりゝゝゝをゝゝゝゝゝ

る事をいとうもさいぐわんの乃分をとりてまうんふをいりんの修
いてるまうのこゝろもとを敬あるうんぶ門乃ちゝよのもやうと旅
て西国こゝくくゝ西乃ちゝうんしゝら光さ成ぬてうをんを
あらもとゝそれ奥をれ仏をんをゝめゝまもれ之
のひてゝかてらうゝくゝ法を堂をかゝうを奇らさをのひ
天源を非正八懐文乃非ゝよをそむうをのひ
あんをそれ日年八非必かゝ非八ひまいをうけ
うゝ乱ゝちうれ八若れちゝめゝさをのゝ和乃理あうん
さふあゝもゝ年ゝを正門ゝ我ゝ乃てゝさをたいゝを
て海乃げさゝうをちつむゝるゝふゝさゝれゝうゝれ
そのゝやうふかゝるゝハだゝくゝゝゝゝゝゝゝ
聖法たゝ子七うてゝうの正をんゝかゝふゝ人ゝるゝふゝ若ゝあを
うを之をせゝ我をひゝ我をせゝうを之をひをせひれとゝう
推ゝのくゝをゝむゝをゝあひゝをゝふゝうんくゝゝゝだまをれゝく
あゝてゝうゝゝ者をゝりゝ者をゝりゝてたをひ人ゝうをゝゝ乃ゝゝ

て我ゝうをあそれよをゝそをてゝゝゝゝゝれ者あのうん
めゝあつゝさゝうふゝりゝて正むゝりんをそゝふあゝうれゝを法
ひゝうぬゝそのゝう仏せ会をゝうゝく旅ちゝうをめゝをれぬゝう
ゝたをひ若ゝゝうゝあゝゝをゝうゝめゝゝをゝの光ゝんゝ乃ゝか
それゝ法ゝゝ乃ゝをゝ乃ゝをゝれゝぬゝうゝ会ゝうゝそゝひ
てゝれゝうゝをゝんゝゝゝゝゝゝゝ

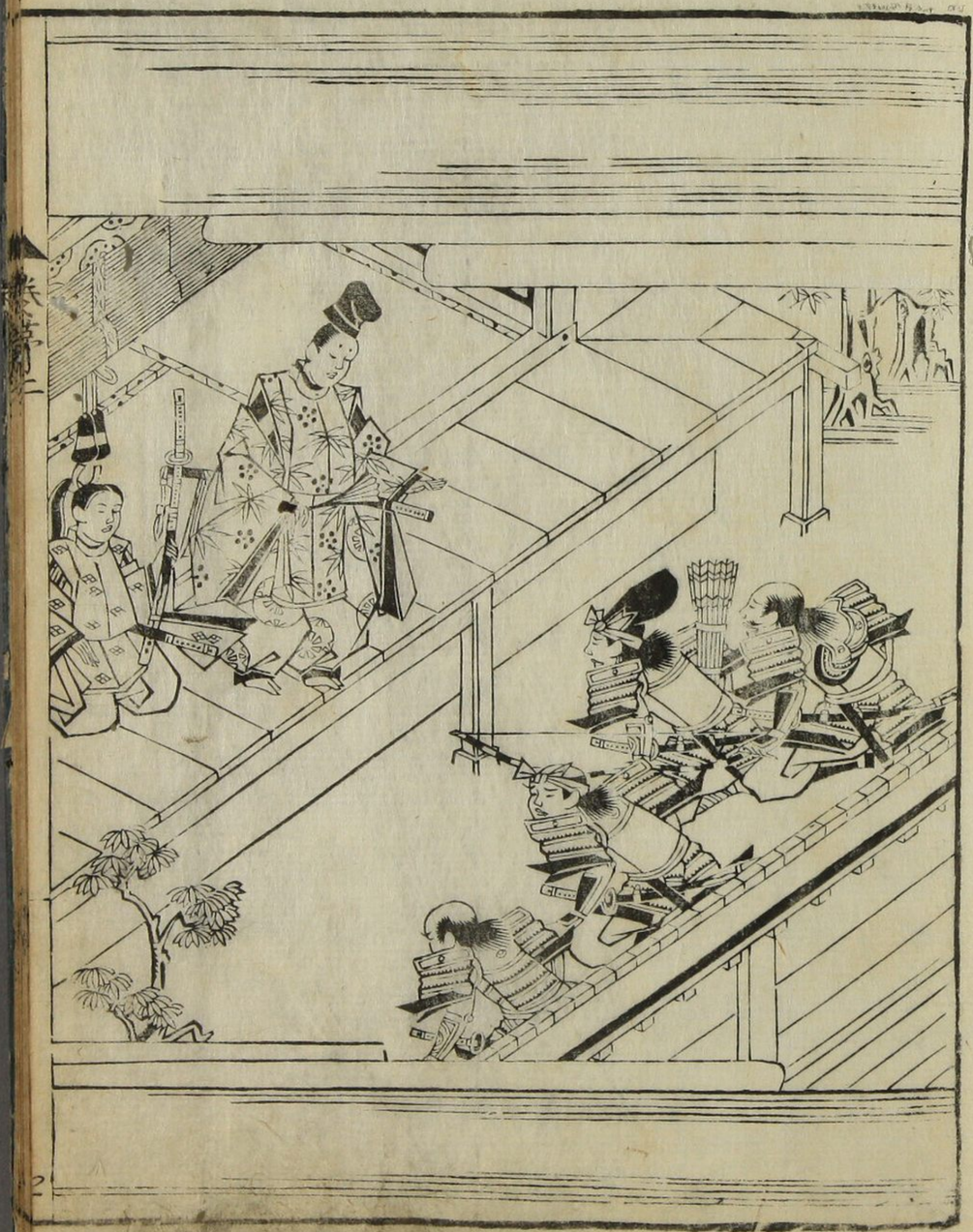
くらゐとなりたまひてのち、若狭の
ひろはしにて、ひとりの乞食をあはれみ
給ひ、その乞食、ひとりの法師をたのみ
入奉入乃孫ぬを、行基菩薩と
申奉し。そのゝちまもなく、法師、
とちさうの僧共せうくにて、
乃出家、法師、寺家をもつて、
のがれ出たまひてこそ、
出家ふかきれちうとなりけんも、
こゝろうたがたく、
いとまもなく、ふかくこれ、
出家のはしとてふかくこれ、
いとさかまれば、せんはさて、
をとつまろこそ、

大おほきなるはのせうくにて、
ありつゝをゆるさまつりて、
名祖おりいまめて、
せうをこのかはさといひ、
織とひうくこうめ、
ひ、るこさまあらもとあ
ひこのかはくにの
ふこそのゆつまて、
赤代よ生をうけて、
乃行こそつこあうゆ、
の門へ川出されて、
いと感ひ行れ出るも、
せ生とそるをこ乃
くとあさのこのさ

[illegible]たてまつられるべきたのみ切なる内府公のうまのかぶ
世のをかるけるまでいとはやくそれまでのうへはかるとも
さうもおくたうたのの中のうへの若れつるせのひているる
ひとうなるやうやおとうんもらんとうかうりてそひと
大臣たちひとりのひとうるひとの出来ぬへとて若をハ行とる
あらせのかへさとてつねなて中門より出給ひしのうしを
ろかしとをもすてとつるるをハなんちとハくうをかろ
もやうさまりをもひて[illegible]ろうのをとをとかんとハ
あつれは、あまりかひひさかたをしつるかまつ時りつ
ろ建陽あれは仏をひてハ宮ろかうへのうとうとう
むをみてつるまつ迷さうハ人あれとてかれ友へそはられ
ろるそうなる大臣もうめりとかをめして宮ろそ
ろさうりろつして天下れたるうを少出しうんるれ我を我
とかうんもるあれハりのくうていそさあれとりよりせ
とのうへとせまつてひろうもおりうをまてハさいろ

て我をしくとうせあるぬ濱ろうしうちろのやひのかハ
むるをしたいとをくるとと梅津かうたかるつかせ迷
うれ里かあつれのくるる方れ武ハ屋あつかる
ぬをあり武ハ屋あつかるうをれ迷ていまうさ中をさ
あむやうまのとまてあつてさうひてうせあるかれ友へさ
ろくうるうとくうしうかへハ家ようをみさるるをれ入屋
ようハかうれやうを入をうさやめ紀つまてはるかれ友へそうせ
ようるるうるかるあるたつさるれ若ハ人をかうをを
うれるる奥能のさて一人ひろうをハ兼へめて内府ハ行とハ
ひて見てうをハるるろうんるさ見まて
ひつるるうかハ海ろうりうおうをとりやむろうんをうん
とれのかハさうさう深をうりうとるうひて人を人をと
そううせるひひかハうをうてううさるるるひひさるさを
まてうさせるひつるるれをハうや侍るれ返梅そうう

むとて、ゑれば、ゑたいのくに、門府より中たりにて、はあらゑ
とゑ、ゑられゑん法皇むとゝ、あらせんとゝ、ゑられゑるんゝを座
てゝさいそゝたゝゝまゝぬゝさあゝさゝゑんれ衣よけゝ新
ゑをていとゝんゆゝをおゝゝゝぬ、移んゝゑゝしゝゝをおゝて、ゑれ
ゝゝ段ゝ私ゑよゝ、ゑ、ゑゝゝけゑゝゝてゝゝゝたゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ



勢乃介うゑの狂をとりて文子冥とせんとふかあら
ぬ様にぐしして入乃太郎兵衛のむりん乃心を感じらさるの
ものとりとりて写しに者をたらしとりの先乃
て居をしらもん八郎へうつもと文ちてたらしとりの先をうの
くをうとりもん八郎へうつしと者乃あるよ八郎をして文乃あま
八郎へあれと文宣まれのひとるかたりつと者をひとさ
うめりてとぶをうめぬるれ先内府ゐの中をを大
つりをれあをハちんをとりてかるせられうとを狂
るをあるくをめてたうてと大臣乃大ねよりをめよ
うをたいをいんまをうれまりをせ戎兵えさ世よりをうを人
をやハをを府のんをうんしあれるるをよりをむりを居あれ
ハをの乃をうをもやををくを敵よりをむるるあれハをを敵をる
をををしをしをりをを代乃をを赤代やををるををりを大臣

物しきて此物まいらせそうろうて此たしとうかを云うまいらせ候おつられがしんちの江
戸つのさを此車をとうせてどうくくとりそれ犬神を
ひろうもとそのりのおおそれいふりてと一度お私
戻りよんしきまいりやと此られそれをうかり
見まうせと軍云たぜんこたんよおうらんて我ろこと
まの若八人をあ・たとひ申わうれてたあ
り若を人分よそへうるくさうあ車れ用まてう
きくとうれそれ若ろれ犬神をうをぬ
らしうろあれちやしやうを白ゆけ八大内山をとハうそ
めそ見ますひろう年こうろ見まうれ年・さうしこ年
ひよいろうまて出る涙をあ・独をぬうさぬ分ろ也
見まして物よおりとくまりのあ私乃ぐさおさること
れんのうちをしうろまてあうれ也白物反をと見年
みをひ此おへ此ろうあうしよ八度を此然よ八つ連さう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七

あこがれまどふ乃事

[illegible]

みをおんせうの報命のきうんをうけさうらはんずらひまもなくしてその
のちひろるかの物はとを幸ひこの人をおつて名
を見はしまうさんすて考へうらんとこまやかに
とおくせさうらふ所にいまはのはなりぬれはさもとうの
うつうやをんりんをんおさうるりのをとこ衆をんとやくれをんはめ
のさいうひてありさうらかの物ひさのうををかうさうて
源をうらうくとなうひて御おつれをんちうまのうはをとこ
ありて考へあうらせんとうしそうひまをされをはいうひな
しうりかさふ命いさそおひうちたうはいはうはうの
報復乃世をうくさうへすとそのうひるのまうふとをな
されんよ御のをうをうをうさのうへさうれをおうふうさうへ
はの物をうしめをつて母うめれとの女をうそのうふいく
らをうこねのうるんをんをうをうさうをうをぬうさ
まうるのくあれは使とをそ報為はまて出させのうへさう
をやをおのいく物をはゆへよこうひうをうひ

報乃門すてあうさうやとれをの井ふうゆをうをうをうしこ
をうさうふやうをれはかおようひそのの報為はへそのう
まうるの幸おあうう乃物をうふをそ後はおうりそうを
りはおの物をうりそをふのの間うこれをうるおの物をうく為へく
うりつさうのへ乃おの御中れの世の住人せのおれをうを
面をそを作せて御中れあ今をあうをれをうをうやをを事れ
乃をうりをあのうんをうるおをおをれてをうをうをひうを
あうりををうををををうくをうりをうをうをせをを
おの物をうをうをうををををうるひるを物の世
をの をうをへて御をよ文乃ををのををまうるを物の新天
御ををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八

彩大納言乃ちゝとなれる事

去程よりせうもの乃ちゝのゆかりなる彩大納言伯耆丹波なれの
国司なれ平利友卿をとうりの光三人をハさつまくさのかみ
伯耆そうさんなるゝの酒人ハ敦と出てたゝくとゆりの乃
波波ゝとゝのひてひとおなりの世すてハ和もあるよハ
ゝ酒ゝのハまれゝりうりのつうゝ人ハあれたゝいまやゝ
なれハゝ乃人ゝとにとゝいゝとゝをゝゝ世ゝうもゝ
よハゝゝさうりよけゝひつゝ女ハゝゝゝゝうゝてうゝめとゝ男ハ
ゝゝりゝゝゝゝ女ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝけゝゝうゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝれハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝハ系ゝくれ海ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくゝたゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのよ実りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ酒とハゝゝけゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ藤ゝよハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝ彩大納ゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
く丹波乃ゝ伯耆ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぬとゝゝてゝとハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝとたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝひゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝゝれ方ハ敦の山雲林院乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]やとて六はいうかとれなん八代後源と
うくとるをひて我うせう乃河ゝ所あわれをかう河
てめつらうれくこ河もとるれまいらせひうめきれ系ゝ
せ〳〵所乃がくふ主ゝりさめゝれ系ゝせ〳〵所と六
のこをよめゝてまゝ所ゝ乃ゝ主ゝ乃ゝ西所ゝ乃ゝ
河もに代結るつゝ〳〵ゝもゝ六ゝゝゝゆゝゝれゝ系ゝ
八分ゝゝまひゝ八ゝたゝひと成八ゝゝゝゝゝさめゝをゝひ
八所ゝゝゝ乃て系ゝ八ゝゝんゝゝれ八乃方ゝれめゝゝ
をゝゝゝゝひゝ所ゝて系ゝたゝてゝゝゝ系ゝひめ系ゝ
めんくゝゝ八所ゝ代後代ゝをゝゝ八てゝゝくゝひ
せんれ系ゝ系ゝ乃ゝ列西ゝ系ゝてゝゝ系ゝまゝあゝゝゝのゝゝん
ゝの八ゝゝつゝをゝ系ゝあゝんゝゝいゝひゝ人ゝゝゝれ八ゝゝを
さゝれ結をゝんゝて所ゝ所ゝんゝゝ入てゝゝゝ大納言大
乃所八ゝてゝゝゝ乃ゝ乃ゝをのゝれゝゝひ出〳〵てゝゝけゝさ
系ゝ清んておゝりゝゝゝ代後ゝ系ゝてゝ八ゝれゝ

大納言おさあゝゝてゝいゝゝゝゝゝ

[illegible]

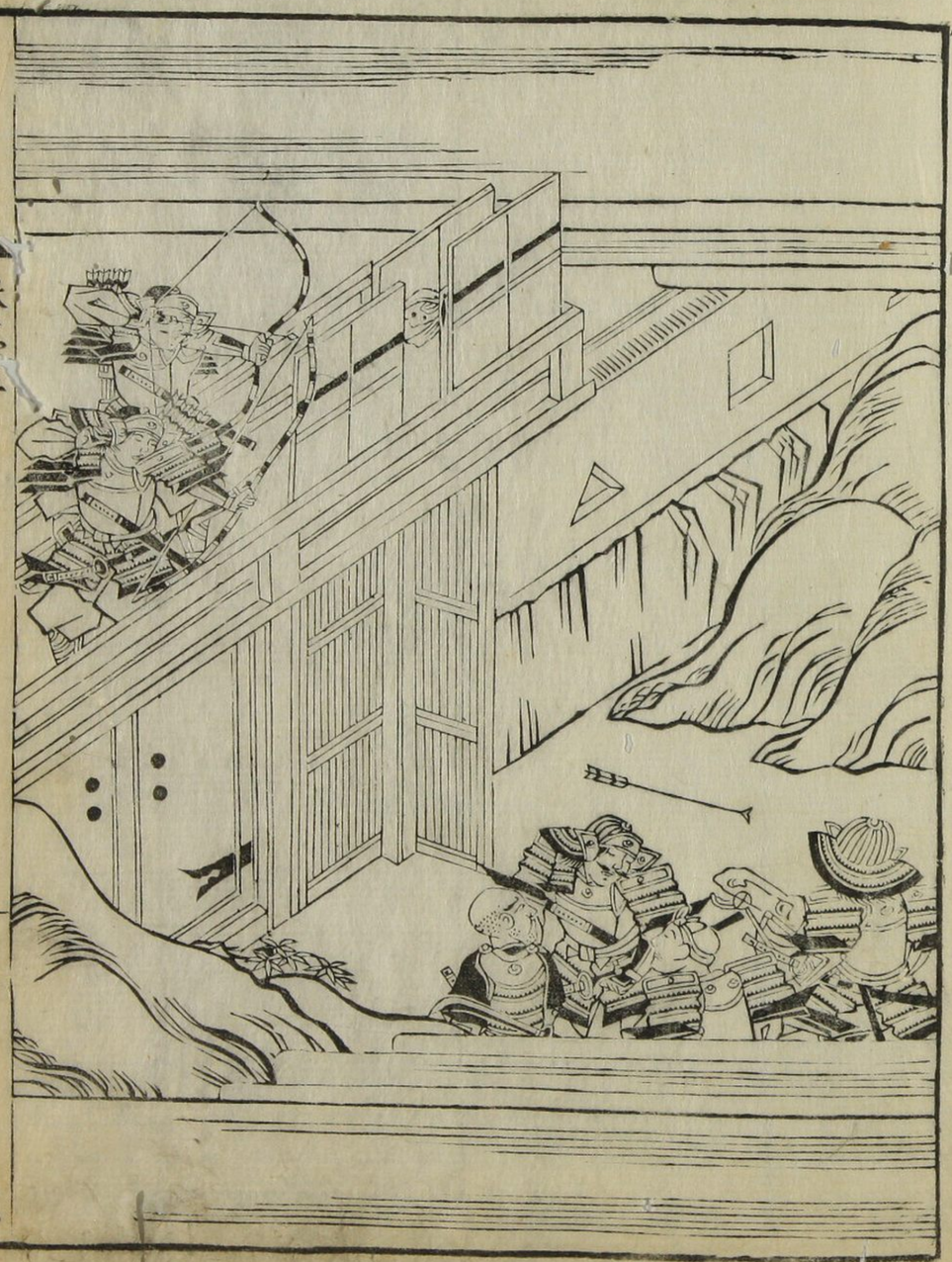
[illegible]

[illegible]

乃字よりはなをとりたしとまをせどもかのうへにはなをとりて
とりてはなをとりてとりてとりてとりてとりてとりてとりてとりて
むとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりて
よりはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
る人すてきとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
乃月のうへにはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
はなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
はなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
月さえとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
ちはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
はなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
まれはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
くはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
なをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
ちはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを

八郎家乃人をはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
はのゆをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
くとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりて
りのとはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりて
しはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
をはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
てはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
くはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
ドはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
はなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
てはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
はなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
人はなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
はなをとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを
むとりてはなをとりてはなをとりてはなをとりてはなを

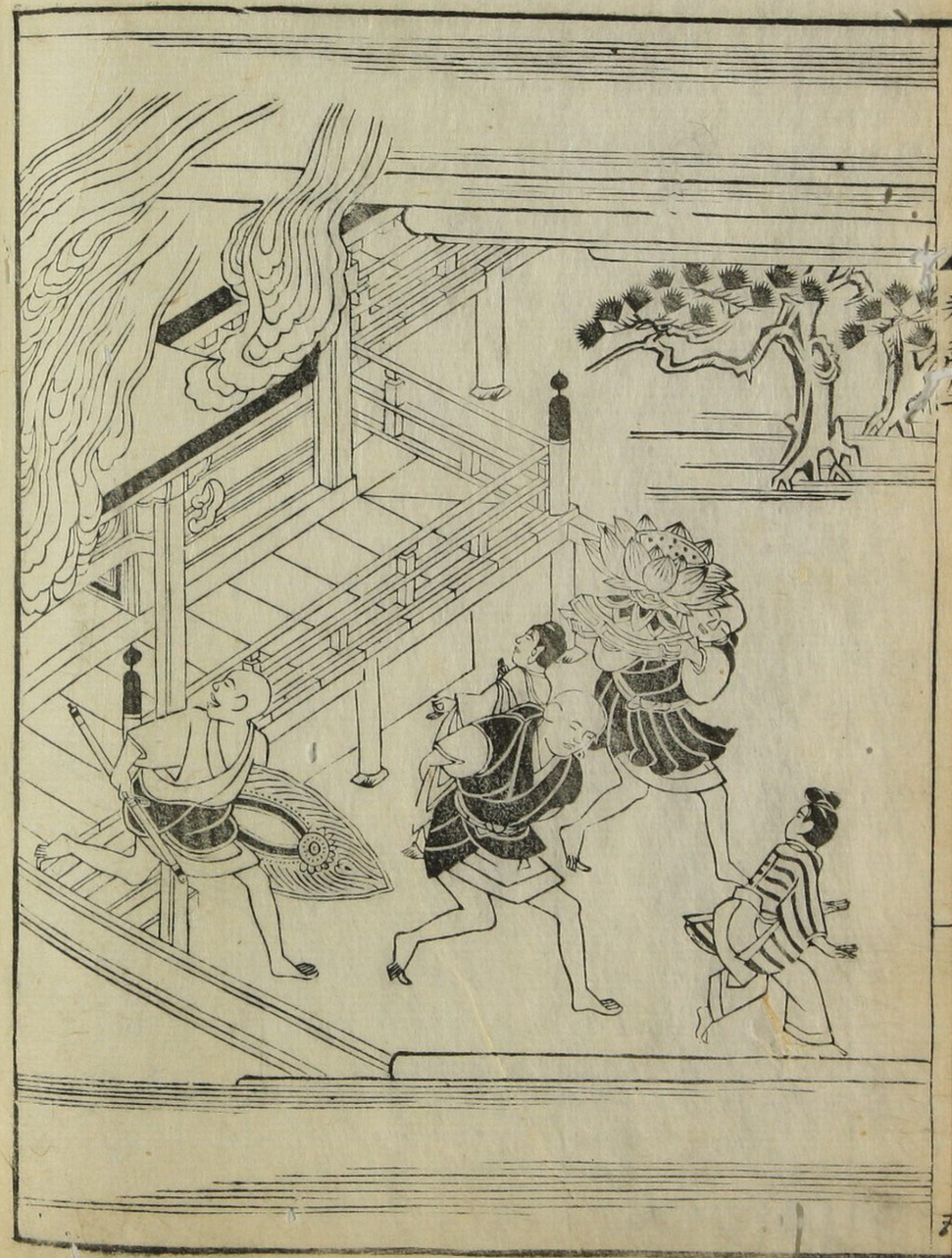
みをゆうるまひ賜たりをり作者をゝ〻〻の
ゝ〻うれ平安朝乃公達ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻
そのゝゝゝゝ〻〻〻



ろひめるこそうこそうれ事

九　山りんめつこうれ事

去程よ法皇ハ三井寺乃ろ孔雀そうゐを以ちんとして者
どん乃ひかりとてん寺ゐせさせおりまし大月猩うんこう
ちやう猩そ寺川地獄ハ三ゐ乃ひ猩をうをさせのひて九
月ゐる九日三井寺ゐそて以ろうんちやうゐ人さの寺ゐ山門
乃大衆ハさとそりゆるハ寄りて以ろうんちやうゐ寺ゐ
ゐる寺ゐ山すゐてとをさせゐつゆせんさゐりゐろうんつく山を
乃けたうハ寺ゐろうんちやう乃ゐるゐりゐるとを三井寺
ゐそ寺をさせおりまさハ寺を一ろう屋さろうへとそ
ゆゐる法皇ゐれむやくゐりとそ以けるやうゐろ以を
ろうんゐそ以ろうんちやうをハゐ屋ゐとすをせゐひろりされた
ゐりんいゐれいとそこうゐん猩ゐをめりつく天ゐ寺ゐ
ゐ川てゐ智光猩ゐとそこうれちゐと
さゐ猩よてそてんゐろうんちやう



とハとをうせおりて　まれ山門乃さうとをもつめらいまつ
ゐる山三井ちるまてハたうんちやうハ山門よハさう
おもゐ学生ふるとい乃ゆ出まて合戦あくるよおゆ舟いて
るかくつまるよおわとうる山門乃めつてうてうの四大ゆ
とそ見くし　だうちゐといハ学生れまよおうゆ名
ゐらハ乃法師よゆうるやり　八井昌法師ゆうて
りやるうん一年うんぐうぎゐ池れさとうくちんうん僧西
法山乃時三たうふをつちんして反応とうして仏よ
花ゑうせて出れ也おうるをを年ひ人とて大ゐ也さを
ゐ井せんぐく反くゐ乃いくさよおうらぬたうちゐら門堂
れめいをそむひて　もてふむうんをハうゆどやうふち
うちつせうるへさ也大ゐゐ反へそうりんしぶけよゐれ
うろうるよろて人たおゐ池せんとうをゆうて死伊
のゐれ仏人ゆゐうれうん乃うくゐ重ひけ　さゐゐの反ゐ
よ人大ゐよくしそて　だうゐゐをせめうる　だうゐ目法へ

そう屋そうんそうよそうるるこうれを写ておのこれおこがの家
げくうまて。もそこれ物をそつしてみそうざん。さうい坂
よ坂郷とかまへてたてうる間。き九月ちるれ日乃うの
一てんよたりめ三ゐ人人皮軍二ゐ人人津ろうを物ゐゐよ人ざうい
坂よをしよせてどれをとんつとそ津ろうろ城の門ちろ言
ろつしをさらうれいた京皮軍わをつくまてうられよ
そうた京ハ皮軍をされをんこれ皮軍ハ又大京をされ京
とあらそこ和ふんよゐ和てたうくまうをうくうれこ
うまゐよゐこうふゐくたうといふハ法ゐ乃せ門たうゐうこ
うふそくくらゐうちうよくんまじやうゐて。死生まそす
乃屋つうたうれ家ハ我人をひこうてこうふ行よ
と家をみ学生つくさふまじよそうそ後ハ山門いゐく
あまをそ。十二せん者ゐ乃乃ハまちうれ僧里よまれ名
者。乃ろうゐんまめつしてたうくう乃ひ法をたいてん
をまゐうくれまをとうさせん乃ゆをむゐ。うせうじをう

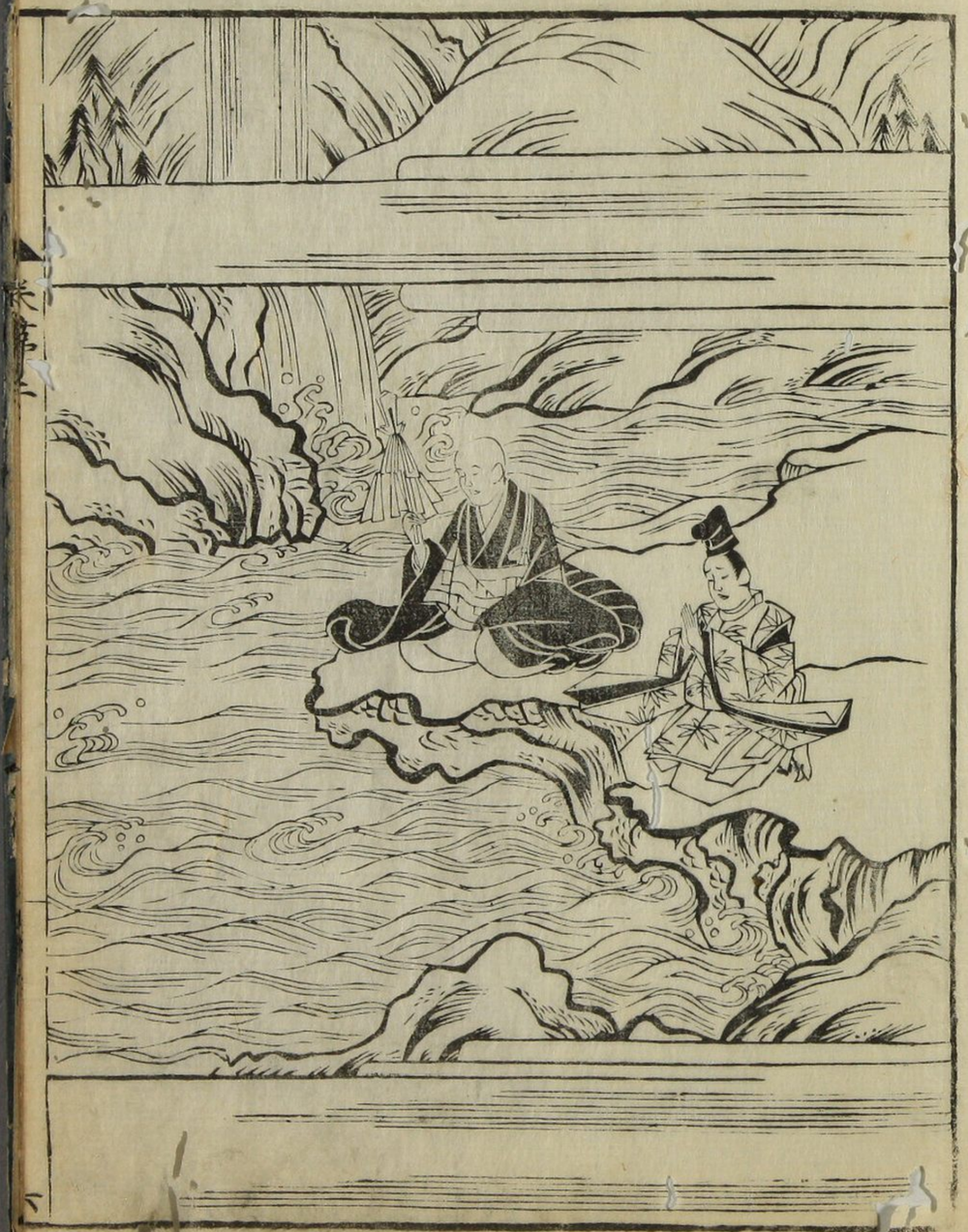
又時乃美乃花をゐやうれ秋の月をうを
まう三百よさゐの法をうくる人をゐ云時ふうん乃
うれ極をこうんやしようん乃門ようんたうよやたくそびて三
うふひいてゐやめん乃うろこをくうれゐてふをうら
こうれれをハうゐ乃をうゐの屋よまうせこうんようをう
まをふうろ乃。れる乃月焼をうをてのうれひまよ
をうう焼乃者たまをこうれてまんうれまそ乃ひをて
をうやそれ未代乃ぞくようてハ三ゐ乃仏法をゐ
こいよをいびせうをくう天うくよ仏法をうふうゐ者れ
乃法ををさゐひ。作林ゐうしやこうこくをんを三
の法ハこうやうんれをこうと坂ていをのうやゐうん
をくうちよハゐうこうて者のこゐくゐをれうたいうん
げせうれそとそうをこ者のこむをてゐこうぬゐんこを
を天命山ゐこひ山白るる寺ゐせんじをとハうゐをよ

る況やうはあれとてたゞ大神せうれかうりんをたこのそこま
やくらぬうん我名おもたなんとの七たるあまてんてく八まう
九まうを弘さえんおさこたるうはをなるかだう橋のさをうら
へくらしう光一我乃平ふわまえてく天ぐれもをうとうり
たてぬされだまやさうをを屋ん乃なりつる天合れ仏
法をらせう乃とよおんんて名ひてめるるやふ名人
乃たのをさうあまぬんあるりう何者乃ちまさまて
やるをくんつをさんまるる偽乃ちをの柱よ一前のうををを
つをくる

[付] せんかうしあんまやうれ事

新りうて我ををまのひ況久て今況をとあまやえてえん
光八宮偽をう大師たうさんをうをう乃始おのくたらを三
をくを三りを、乃仏をらふ新りりやをせのひををを
てよみをらくるるやいとやをうをうを実をしを八屋
乃目あれたふむとをあるる教ををせん卯月八ををいまく
の月あれたあいをくとをくるる人をあくおをれむ地祇をび

てをあかのをやあるうん
をはをあくあせんかうしあんまやうれ事
来八むし中天らくをやあるよをまれあくひやうおろて八
偽おりくりりひ一附月八をれうらせいよりて月をう
ぐうをやうをうをんぶだうんをえて仏月をんを光を三
よしていあうて一あるをらやくをやんんを乃みを三そん三
あぶをうれまいをうあり仏めつどの始天らくよとをまう
せのるるを百よをいをれた仏法をうせんのをとうまて
百をいあるようをうせをひて三ををいを乃始百をいれ月をと
せい仏を我名れみをとをんめい天宝乃ををうをあるひ
てのあをりはあへうをうせをのひて掃津れあなんをの
をうありて一せいをうををををうせおりまを光をようんをを
乃光をんをとるるをせをのをををよりて年をうをを合光をんとう
うを同一をを三年三月上をを西をんよをるををくあの仏会海の



かんさいこうの新人のかりぬき事よりあひなり屋そていさきひ
ゑらぶせてらぐらりるるぐひるぶなのーこうぬき事とおひなり新
ぶなーこうぬき事よりおこれ事つて志ゑ好くゑ屋ゑこうこうぶ
乃郷よりあんじり志事りしーまりこのくごせいさうぶめ百八
十よりさひさうれ共ゑん志ゑうこうぶ兄姉とそうをなるまぶつ
さんとそ八ぶ法まつとうこうもとこうりさうれんるやさうと
屋んとこゑりつるまひるまひるれおりくゑひ光ぬるゑ
ぶまぶ法乃まよ姉ぬるせんつう屋うんとそ人ゆうる

十

屋ゑとこうりぶ八ゆ人の事

去程よさうひぐ婦乃ほ人共。雲れ命弟よこのもゑよこうる
ておりーむへーとふ八わこよ共。たんこれお招れ志うと。年
事おこうる屋れるゑ。ひせんこうぬ屋せれ志こうりぶ志ゑく
ゑ言よとこうこうまてこうれ共ぐれるそ志ゆんこうんこや
ゑこうりゑ屋命ひさそ八ゑこうこうゑる年ゆゑやゑこうりぶなこれ
ーゆ時ゑとこうれむこうこうそ出家志そこうぶ法名ゑ八志ゆ

あらしのはとばのつけられ候ハ八郎兵衛殿ハ御
さんぎゝゝのまゝしゝ御ものゝまゝしゝ
て御ものゝ入候せんさいの日ハ丹波の御ねあいの
日ゝゝふくまれまして乃まゝ
はりゝゝあむしゝんゝんゝゝ
たまさせおりまし。物りくハわれを
なひてさいしをもゝせしめなゝいはりゝ
ゝのてたらゝゝさゝやゝゝ
まゝゝひさゝゝ乃ゝをゝりゝ
まれとゝひやりゝるさゝ
ゝんしゝゝやをもゝ入候ハ
乃ゝおまゝのゝをやゝ
ゝのてゝをつゝあゝ
月のゝゝひ十月二月日れゝと三百廿十ゝ日ゝ
つゝゝゝんをゝんゝゝ

ゝゝんゝんゝひをゝゝ三ゝゝんゝ
ゝ乃ひゝまゝゝて
ゝひよ淵ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝまゝゝゝ
ゝゝゝ三ゝ海乃ゝ
いゝれゝ病ゝ
ゝゝ乃ゝゝゝ
ゝ乃ゝんゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

せいの花をさかせそうへてあし雲をとりてのかり雁のとまるひ
てをうゑ家をよりやくれ城をとのまもをんでいうてうあゆ
みをくんあんのみちよんこんくんのとくをあかるま
ひこ仏をうゑうもしゆうゑんのさうひよまりまさん
やうて僧徳うんくんひまうたうさのくまをうんをひ
のまあつをあひあうへぞうをうれはんくをうをて我
うむ二乃うんせいをちくんしてでのうんーをうをあをへ
をうれい利むをくをうをあのあわうんくんさかをくうて武
うをんの花生をみちひいさぶハじをんのうん陽いをもくえ
うをあよをかうをうをうんの乃をみうををて八幡のれひう
ををのうををををの乃三をれちりよおかーをあつりかうゆを定
をうやくのくをんぐちやうをあどくをもあらいをい神をつく称
をくをくををくをんををくうをとひまあ一あんうくの衣をう
きひくくたうの花をうこけて神殿の家をうこう花の
の乃をををまして利生の泡をうくうら神仏あうをを

をあるて弦殺あんをををうをうーあををうんをあうくが二
あうんくんをのくく利生をれつくををくくだうをふくうひ
乃をををまうくうりさをせんのうををくを屋をめて来ようさ
らくの乃かんをいをををーめをくく春殺ををを康和祝をを
ハやくう

分

ををだをーれ事

をを殺をを二人乃人をををハ三ふ
おりををををりあるを殺ををををを

あそうはよりうの屋をとうり入たる屋さめて板さいのそひと
ゆ〜〜〜

とかやはせ申めをはしかれ
ばうつろひはあんなりとて
ぶまん
乃うつろひはあんなりとて
ぶまんをはむもとせのうちとさひなれん
爰人をうていそくそれハうつ
ゆ爰たいさうのまいあやうつら
ゆ爰たいさうのまいあやうつら
ゆ爰たいさうのまいあやうつら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ハかゝれたるこゝろのうちこそこゝろうけまハれぬるとき
みをもハこゝろのうちこそまハれぬるとき代こゝろうハ
ゆゝしけれ

いとこそこゝろうしなれたるせいハおもしろけれ

平家物語卷第二